

10年続く四人勉強会

大阪市の男女共同参画センター「クレオ」北館で2007年に開講した『プロ講師になろう塾』。受講者から「こんなハードとは思いませんでした」と言われたこの企画塾の10周年記念同窓会が4月にありました。

ハードさに面食らった一期の受講者。帰り道一緒になったその四人が10年間毎月勉強会を続けていると聞いて感服。今では「学習の友」だそうです。

**テーマを前面に**

例年一月中に決める当年のテーマ。旧年後半から新年の流れを感じ、読み、意味づけして、今年は、『時代の転換点、精神の糧を豊かに！』。

「スローニュース」という報道姿勢がクローズアップされるほど、劇場型、偽装型の情報があふれる世界。真偽を見分ける知力と詭弁に立ち向かう度量が社会生活のリスク回避に必要。

知力も度量も修得には長い時間がかかるもの。そこで、教養のための読書とく自習を強調することにした2017年です。

LEE'S リーズ
http://www.leeslee.com
〒530-0012
大阪市北区芝田2丁目8-15
北梅田ビル35号
リー・ヤマネ・清実

「自業^{じぎょう}40年」+ α、究める“本業”

昨年春にアップしたブックレット『自業のすすめ』に「自業40年」について書いています。

「自業」は「じぎょう」と読んで、「自分ならではの仕事とライフスタイルで誰かのためになり自分も本望な生き方」という意味あいで使っています。

先達の知にふれ、旧知の先輩たちの例、そして「自業」途中の自分のケースも含めて考えてみると、「自業」は40年でひとつの到達点。その前半20年は伏線、後半20年が本番。

一般的に18歳から22歳で社会人になり、しばらくは「やらされ感」。そのうち後輩が出てきて、同級生に結婚する者も現れ、地位に差が出てきたりして、自分の将来に現実感。そうして未来を展望するようになるのが30歳前後。

仕事と人生に目覚めて、すすんで勉強もし、責任も伴い、仕事の力がつく10年。つけた力を大いに発揮し

て自他ともに認める存在になるのに10年。こうして「自業」前半の20年が終わる頃、年齢は50歳前後。

ここから「自業」本番。前半終了2、3年前あたりから本当に自分がやるべきこと、やりたいこと、自分の“本業”を考え、準備し、後半20年に臨む。初めの10年は<地ならし>、後の10年で<達成感>。年齢はかれこれ70歳になっている。

もし途中で‘終わり’がきても「自分を生きた感」。自業40年を迎えたなら「自分を生きぬく感」、さらに“本業”を究めて、人の役に立ち、“ああ、おもしろかった”と「自業」を畳む時まで生きぬく。

最近「自業」本番に臨む50歳前後の女性たち、“本業”を究めて新境地にのりだす70歳前後の男性たちを見かけます。少なからず葛藤もありそうですが、だからか「大人な青春」を感じます。

少しざわめいたほうが、人は初々しく、人生は活気づくようです。

<印象>から端を発して

2017年も半年がすぎるこの間の印象的なこと3つ。

“悩んでいる割には自分で勉強していない・・・”。新進起業家の一人の相談をうけて聞くと、勉強会には出て、学ぶ姿勢も見え、一生懸命さも伝わるのに、知ったことを自分で掘り下げて考える、勉強するという過程が抜けている。

“無理？ そんなことはない・・・”。同業の人とグループディスカッションの進め方に話していて、発表後に他のグループからの意見を募るなどして相互に評価し合うことを勧めたところ、『それは無理だと思います。他のグループの批評なんてしないで、誰も意見は出さないですよ』。

“あらっ、コワかったかしら・・・”。世に出て活躍しようと相談に来た人に、あれこれ助言している場面に居合わせた旧知の起業家、笑みを浮かべてわたしに一言、『やさしくなられましたね』。

一つ目以降、「みなさん、自分で勉強しましょう、<自習>をしましょう」と勧め、二つ目以降、私はこれまでと同様でいこうと再確認。三つ目については他の旧知に会うごとに尋ねてみて、やさしくなったようで厳しさは今も尚と自覚。

<印象>は、記録しなくても記憶しているもの。個々人のセンサー。そのままやりすぎず、ちょっと目をむけると、自他ともの世界観に刷新あり。